

鼓阪小学校保護者説明会での質疑応答、意見等要旨（令和5年9月2日）

	統合再編計画について	回答
1	本当に子どもたちのためになるのであれば大賛成だが、学校規模適正化は、誰のためのものなのか。教育委員会としては、指示されて従うだけの統合再編なのか、鼓阪の状況を踏まえて丁寧に細かく本気で考えた上での統合再編なのか、疑問がある。	学校規模適正化については今までも説明してきたとおり、教育委員会として子どもたちのためにより良い教育の実現を目指し実施している。
	通学について	回答
1	スクールバスの利用条件は自宅と学校の距離が2 km以上ということだが、温暖化も進み、大人でも炎天下の2 kmは辛い。子どもにとって2 km未満であっても大変な負担であるため、スクールバスの対象を全員にしてほしい。	従来は遠距離通学費助成を支給し路線バスの利用を想定していたが、乗り換えが生じることや通学に時間がかかる等のご意見をいただき、送迎車を運行する計画とした。遠距離通学（2 km以上）の児童を対象と考えている。現段階では、全員の送迎は考えていない。
2	通学路にグリーンベルトを引き対策しているとのことであるが、グリーンベルトの幅は狭いと感じる。	グリーンベルトの幅は、元々の道幅と車幅を考慮して可能な範囲で最大の幅を取っている。
3	グリーンベルトの幅に基準はあるのか。	車が安全にすれ違える程度の車幅を確保するのが基準である。グリーンベルト外側の白線が、車が入ってはいけない範囲を区切る線であるが、路肩から十分な幅を取れない場所があることは事実である。通学路交通安全プログラムで県の担当部署職員ともこの周辺を歩き、子どもたちが安全に通行できる幅の確保のため可能な限り道路の両端どちらも広く設置したいということで話していたのだが、道幅と車幅の都合上これ以上広げることが難しく、実現できる最大限の反映をしてもらったと聞いている。
4	グリーンベルト内に電信柱があり、電信柱からグリーンベルトの端まで10 cmほどしかない場所もある。子どもに通り方を教える親として、どのように通るよう伝えたらよいのか。車道を歩くよう言えばよいということか。	原則グリーンベルトの上を歩くよう保護者からご指導いただいていると思うが、障害物や車幅の関係で部分的にグリーンベルトが非常に狭い場所もある。物理的に十分な歩行スペースが取れない時は、車に注意しながら、なるべくグリーンベルトの上を歩くようご指導いただきたい。
5	送迎車は家が佐保小学校から2 km以上離れている条件で対象となるということだが、1.5 kmの距離から歩いてくる1年生にも、「グリーンベルトは狭いから、グリーンベルトではなく気を付けて車道を歩いてくるように」と伝えれば十分だと考えているのか。	通学路指定についても、より安全な道がほかにないかという見直しを行うことを検討している。グリーンベルトも幅が狭い場所はあると思うが、子どもに通行の指導をしていただく際は基本的にはグリーンベルトの上を歩くようご指導していただくことになる。道路の拡幅が難しい状況の中で、今実現できる最善の安全対策としてグリーンベルトを設置している。他にもどのような安全対策ができるのかについては、通学路交通安全プログラムに基づく合同点検を通して対策を検討していく。
6	親としては、子どもに車道を歩いていけとは言いたくない。やむを得ず車道を歩いた時に万が一事故に遭ったら、親はどこに責任を問えばよいのか。	車の通行量もあるため事故がゼロということはないと思うが、事故がないように奈良市としても安全対策を講じていく。
7	グリーンベルトは安全なのか。	一般的に通学路の交通安全対策として、グリーンベルトは効果があるとされている。子どもの通学路であるということは運転手にとっても認識は浸透していると思われる。
8	その安全なグリーンベルトを用意できないから、車道に出るとのことか。全員にスクールバスを配備するのが良いと思う。	一条通り（県道谷田線）の中には、グリーンベルトの幅が狭く子どもの体全てが収まらない場所も何か所かあるが、極力グリーンベルトの上を、少し出る場合も気を付けて歩くよう、指導していただきたい。
9	「事故はゼロではないと思う」という発言はどうとらえたらよいか。ゼロのものは世の中にはないが、あくまでゼロを目指すべきであり、教育委員会側が「事故はゼロではないと思う」と言うことは、間違った発言ではないか。	今も安全対策を取っている上でも、通学における接触事故などがほかの学校で起きていたため、「ゼロではない」と発言したが、教育委員会としても安全対策を取る中で事故をゼロにすることを目指しているため、今後も安全対策に努める。
10	飯守町からはバスが1時間に1本もなく、子どもたちは歩いて行くことになるが、今の道では子どもたちが歩いて行くことはできないため、道の整備をしてほしい。	飯守町は小学校からの距離が2 km以上となるため、送迎車に対応しようと考えている。道路についても、安全対策を講じていく。
11	放課後子ども教室などが実施されているが、家の遠い子どもや遅くまで授業のある高学年が参加すると帰りが遅くなるという理由で、現在は家の遠くない低学年の児童のみを受け入れていたかと思う。今後統合でより遠距離通学の子どもが増えると、せっかく地域で使える予算があるのにその恩恵を受けられない子どもが鼓阪地域から増えると思うが、どうなのか。距離や学年、貧困格差による制約の犠牲となって教育が受けられなくなることはないようお願いしたい。	放課後子ども教室の取組について担当している地域教育課が今ここにいないため、一旦持ち帰って検討させていただく。ここは地域の協力が必要などであり、予算についても地域での協議の場へ上げていく形になると思う。

その他	回答
1 子ども向けのワークショップを行うということだが、そのワークショップの内容は校舎に関するものだけなのか。廃校を不安がる子どもたちに対するケアはしてもらえないのか。子どもが納得できるまで市から説明してもらえらる場を設けてほしいが、その予定はないか。	昨日、校長から子どもたちに向けて説明を行ったが、その1回の説明で十分だとは考えていない。佐保小学校の子どもたちとどのような学び方をするのかということについても説明していく。令和8年度の開校に向けて一緒に行事に取り組んだり、授業において合同で学んだりする機会も設けようと思っている。また、児童会など学校内の組織については、子どもたちの意見も聞きながら進めたい。開校に向けての物事を子どもたちにも投げかけて一緒に考えたり、交流の機会を増やしたりして、円滑に子どもたちが学習に取り組めるようにしていきたい。それでも統合再編に対して不安に思うことはあるかと思うため、担任の先生も含め学校、教育委員会が連携し対応していきたい。
2 子どもたちの鼓阪を愛する思いに応える場が必要である。子どもたちも、生まれ育った地域と学校の問題について相応に自分たちの意見を持っているため、そこをしっかりと考えてほしい。	子どもたちは地域や奈良を背負う存在となるため、その子どもたちが地域のために何ができるのか、何をしたいのかということは、学校教育の基盤であり非常に大事なことでありと考えている。そのため、子どもの意見をしっかりと聞き取れる場を持ち、ふるさとを愛する思いを大切にしていきたい。
3 保護者に事前に説明がないまま、昨日の全校集会で子どもたちに統合再編について説明したことは、先走りすぎではないか。東大寺での150周年記念イベントも控えているのに、子どもたちに動揺が出てしまうのではないかと懸念している。	校長からの説明により生じた不安は、先ほどの質問からも心得ている。全校集会で説明したことが全てではなく、今後丁寧に説明していく。昨日初めて聞いてその場で口に出せなかった子どもたちの不安も、今後話が具体的になるにつれて細かく出てくる不安も、一つ一つ寄り添って聞いていきたい。
4 なぜ、昨日いきなり子どもたちに伝えたのか。この説明会の前に何か先手を打ちたくて独断でやったように思える。	教育委員会や、同じく児童への説明を予定していた佐保小学校と協議し、時期を合わせ昨日説明した。指摘にもあったとおり、これまで校長の私から直接子どもたちに説明する機会はなかったため、ちょうど9月1日実施予定であった全校集会の場で話をした。昨日実際に話した内容は、「150年続いた鼓阪小学校で今後学ぶことができないということはとても寂しい気持ちになる人も多いと思うが、その気持ちは大切に持つて行ってもらいたい」「その気持ちをもちつつも、皆さんには前を向いて考え、行動できるように頑張ってもらう」といったものである。子どもたちの受け取り方は様々であるため、繰り返し様々な場面でメッセージを出していかなければならないと思っている。
5 全校集会で子どもに話すということを、先に保護者や周りの大人に伝えておく必要はなかったと考えているのか。	今後子どもに伝える際には、より注意深く、保護者や地域の方とも連携しながら進めていきたい。
6 新しい校舎にはソーラーパネルを取り付ける設計だが、20年後や30年後にはまた取り換えるのか。破棄に困るという話も聞く。	寿命が来たら取り換える。取り換えの課題はあるが、ソーラーパネルを設置し、環境に配慮するとともに、太陽光発電によって炭素の使用量がどれだけ減ったかについて学校での教育にも盛り込んでいきたい。
7 運動場へのアプローチやプールを大通り沿いに配置するなど、新しい学校の設計には子どもにとって不便で安全面に欠ける部分があると感じる。	新しい校舎には、コモンズルームという教室以外の子どもたちが学ぶ場所や、図書室など、多くの交流の場を設けている。すべてを教育委員会で決めるのではなく、子どもの意見をしっかりと聞く機会は設け反映させていきたい。プール等の配置は計画段階のものであり、大通りからの視界や動線等についてはしっかりと検討していく。

意見	
1 納得できないまま学校が廃校になってしまうと、子どもたちはずっと引きずってしまうのではないかと懸念している。廃校は在校する子どもたちのせいではなく大人の責任であると子どもたちに説明し、納得させてほしい。	
2 大規模学校で学ぶ意義は、登校しづらい子どももいるような現代の実情に合っていないと思う。吉野の方でも、小規模学校だからこそ子どもたちがより豊かに育っている事例はたくさんある。少子化対策を行うのであれば、今ある命を大切に育てることが大切であると思う。	
3 150周年を迎えられる学校はなかなかない。一度潰してしまえば、もう二度と戻らない。奈良市が力を入れるべきなのは地域の活性化や魅力あるまちづくりであり、統合再編ではない。学校の統合再編するための予算があるとしても、まだ建設工事の予算についてはわけではないのだから、今なら止めることができる。大きなうねりを皆で作って、子どもたちの思いを市に届ける取組をしていきたい。	
4 子どもたちが自由な意見を言えるよう、風通しの良い雰囲気を作ってほしい。	